

2019年2月クルディスタン報告書

Reporta Kurdistanê Reşemiyê 2019'ê

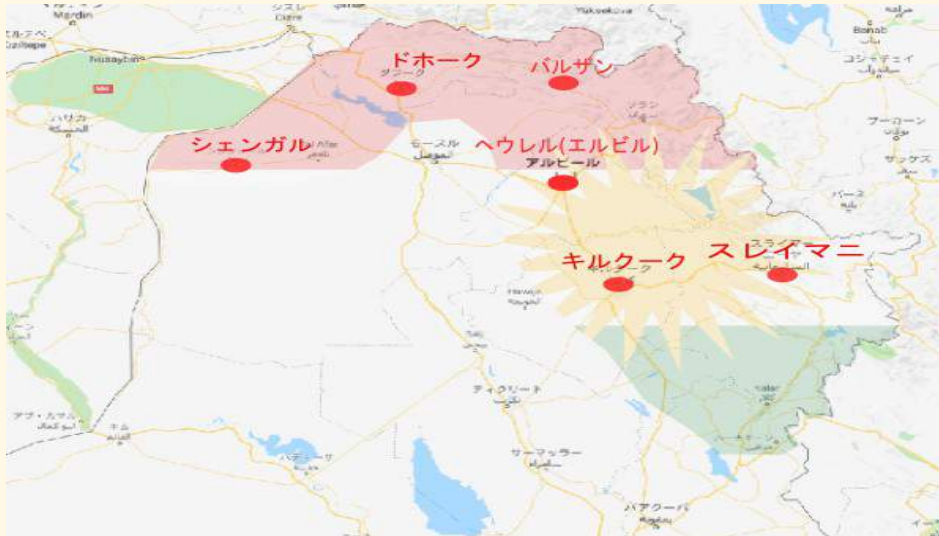


出典:パリ・クルド研究所

一般社団法人 日本クルド友好協会

南クルディスタン（イラク北部クルディスタン地域）

Başurê Kurdistanê



政治動向

▶停滞する新政権樹立

クルディスタン地域総選挙から今月で124日になるが、クルディスタン地域政府(KRG¹)の新政権樹立は蝸牛の歩みの如く遅々として進まない。昨年の選挙で圧勝したクルディスタン民主党(KDP²)が主導し、それにクルディスタン愛国者連盟(PUK³)が「連立」ということで不本意ながら追随する構図だ。PUKがKDPに異議申し立てをする度に組閣は停止する。PUK 政治局トップのマラ・バフティヤルは2日、記者会見で腐敗撲滅のためKRGを整理する必要があると発言した[2日、ルダウ]。KDPに対して組閣を急ぐあまり疑念を払しょくせずに済ますことは許さないと民意を代弁する体裁を取りながら、PUKをないがしろにすれば新政権樹立から撤退するというメッセージである。PUKは与党の片棒を担ぎ一方最大野党でもあるという矛盾した存在だ。与党陣営内では立場が弱く、一方で与党に属することからKDPに対抗するため野党を結集する求心力はもはやない。とはいえPUKは私兵ペシュメルガを有していることから、拒否権発動可能でありKDPも慎重な対応を余儀なくされる。KDP幹部は3日、クルド系メディアの取材に対し5日に新政府樹立を巡る協議を再開すると述べた[3日、NRT]。そして5日KDP、PUKは18日に議会を再開することで合意したと発表した[5日、クルディスタン24]。また両党はキルクーク問題について、知事職は選挙結果に基づくことで合意した。KDPの臨時KRG議会議長は9日、同党はPUKが第一副議長職を得ることに

1 英語名 Kurdistan Regional Government の略。クルド語では、Serokayetiya または Hikûmeta(前者がクルド語、後者がアラビア語で政府の意) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：[クルディスタン地域政府大統領府公式サイト](#)

2 英語名 Kurdistan Democratic Party の略。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistan を略して PDK。また単に Partîとも呼ばれる。

3 英語名 Patriotic Union of Kurdistan の略称。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nîştmanîya(民族主義者) Kurdistan を略して YNK。また Yekîtiとも呼ばれる。

合意したと発言した[9日、クルディスタン24]。KDPはエジーディ(ヤジーディ)、クリスチャン、テュルクメンといった少数派の権利擁護の観点から、ポストの割り当て制度創設を検討していた。PUKもコンセプト自体には賛成していたが、副議長職の複数化によるポスト新設という点に懸念を表明した。というのもPUKは副議長職の任命権を保持しており、副議長職の複数化はKDPによる地位低下策謀と受け取り反対していた。そこでKDPはPUKの副議長職は筆頭格にするという妥協に応じたのであった。KDP関係者は議会再開が迫る15日、PUK、ゴランとの合意は近いと楽観的な観測を明らかにしていた[15日、クルディスタン24]。しかしPUKは16日、キルクーク問題について合意が成立しない限り新政権を巡る合意文書には署名しないと発表した[16日、ルダウ]。一方で有力野党ゴラン⁴(変化運動)はKDPと合意した。かくして18日、議会はPUK議員が欠席する中開会した。議長選出の投票が行われ KDPの女性議員ヴァラ・ファリードが選出された[18日、クルディスタン24]。初の女性議長が誕生するという歴史的瞬間に、PUK議員は立ち会うことができなかった。KDP系メディアはPUKの事実上の指導者コルサト・ラスルが KRG前大統領マースード・バルザニにKDPとの緊張緩和に向け「助け」を求める書簡を送付したと報じた[23日、バスニュース]。バルザニはこれに応じて KDP指導部にPUKとの会談を調整するとの返事をした[25日、ルダウ]。PUKは昨年総選挙の際、広報部門が選挙結果を拒否すると声明を出し副首相クバッド・タラバニら指導部がそれをまた否定するという不始末があった。PUKはKDPとの関係において内部統制に苦慮している。前述のKDP系メディアがコルサト・ラスルの要請を「助けを乞う」と侮蔑的に表現したのは間違いではない。PUKはこれからもKDP案にボイコットをしつつ土壇場で合意することを繰り返し新政権樹立を遅らせるだろう。

野党動静

与党の一角PUKが迷走する中、他の野党勢力は新政権に参加するか、また野党陣営を形成するかが勢力拡大に有利かをしたたかに見極めながら動く。有力野党は新政権に参加する見通しで強力な野党陣営の形成は見込めない。総選挙後に当初結果を否定すると主張していたゴランも政府に参加する意向だ。ゴランはPUKから分離して成立した勢力であり、クルディスタン地域議会で第3位の議席数を有する。ゴランはPUKが再びKDPと対立する中、KDPと合意に達していた[17日、ルダウ]。そして18日の議会再開会日にゴラン議員は出席した。

クルディスタン地域の代表的なイスラム政党は2つある。クルディスタン・イスラム連盟(通称:連盟)は新政権に参加する見込みだ。もう一方クルディスタン・イスラム協会(KIG⁵)は、先月野党を形成すると息巻いていた。KIG指導者サバフ・ケラメニは新世代系メディアの取材に対し、新政府樹立が遅れているのはKDPとPUKの対立が原因とした上で、KIGが新政権に参加するかは未決と述べた[12日、NRT]。先月KDP側と会談を行ったとは同党と関係正常化をただけとくぎを刺した。KIGは PUK側と14日スレイマニで会談を行ったと報じられた[14日、NRT]。新政権樹立に関する交渉が行われたのは間違いがないが、両者の思惑は定かではない。連盟がKDPと交渉する中PUKを通じて新政権に参加を検討しているとも考えられる。孤立しがちなPUKとしても味方を増やしたいところである。両者にとってタイミングはいい。

4 2009年にPUKより分離してできた政治勢力。クルディスタン地域では第3の規模を誇る。
5 クルディスタン・イスラム協会の英語名、Kurdistan Islam Groupの略。クルド語では、Komelî(協会) Îslamî(イスラムの) Kurdistanの略。

新世代は野党が新政権参加を表明しても、不参加の意向を変えていない。新世代のイラク国民議会議員は11日、組閣中の新政権は以前と何ら変わらず同党はKDP—PUKが主導する政府に加わることはないと発言した[12日、NRT]。政権が変わっても有力者による利権分配構造が変わらないというのは、ある意味で市井の声を代弁している。政治に影響を及ぼすことができないからこそその放言ともいえる。新世代は党首シャスワル・アブドゥルワヒドの著作「クルディスタン 2033」に見られる魅力的な未来図と改革案を示す。とはいえ実際は泡沫政党に近く、彼らが批判するKRGの構造を変えるだけの具体的ビジョンも力もない。中央政府とのパイプを頼りに野党としての存在感を誇示しようとし続けるだろう。

キルクーク問題

▶PUKの帰還

PUKはキルクーク帰還に向け少しずつ既成事実作りを進める。先月はキルクークの党事務所にクルディスタン地域の旗を掲げ物議をかもした。4日、PUKの実質的指導者コスラト・ラスルは昨年10月16日以来初めてキルクークを訪問した[4日、ルダウ]。イラク連邦警察はラスルを逮捕すると警告していた。ラスルが多数のペシュメルガを護衛として引き連れキルクークに到着すると、警察による封鎖に見舞われたという。PUKはキルクーク奪還を目指し果敢な行動を繰り返す一方、クルディスタン地域内部での内紛により重要な機会を自ら潰した。キルクーク評議会は18日ヘウレルで再開される予定であったが、KDPとPUKの対立の煽りを受け延期された[18日、クルディスタン24]。

▶ペシュメルガ再駐屯なるか

KRGは以前よりISの脅威に乗じてキルクークへのペシュメルガ再配備を狙ってきた。そのためIS掃討におけるイラク側との協調を目指している。アメリカもイラク側の治安維持能力の低さにいら立ちを募らせ、IS最盛期においてもキルクークの治安を守ってきたクルド側との協調を促してきた。ペシュメルガとイラク軍の高官は4日、ヘウレル(エルビル)で対IS共同作戦実施に向けた協議を行った[6日、クルディスタン24]。両軍高官の会見は昨年10月以来初めてのことであった。ISの脅威が存在する地域で両軍の高官級、下士官級の作戦会議室設置が決まったという。一方、ペシュメルガをキルクーク市と郊外の「係争地」に駐留させるというKRG側の案は拒否された。イラク側はクルド側のキルクーク奪還の目論見を強く警戒する。イラク側の懸念を煽るかのようにペシュメルガが既にキルクークに拠点を築いているよう風評が流れ始めた。KRGペシュメルガ省はキルクークに作戦司令部が設置されたという情報を否定した[13日、バスニュース]。ペシュメルガ省が否定した風評には、司令官の名前等具体的な情報が含まれていた。15日には、KRG安全保障委員会委員長マスルール・バルザニはイラク国家安全保障担当補佐官と会談を行った[15日、クルディスタン24]。マスルールらはミュンヘンで開催された安全保障に関する国際会議に出席しており、同地で会談が行われた。両者はペシュメルガとイラク軍が共同作戦を実施するための仕組み作りが必要であるとの認識を一致させた上で、脅威を増すISへどのように対処していくかを協議した。政治経済面

でも協調の機運は高まっている。イラク中央政府は17日、[キルクーク、ニナワにおける国内関税撤廃並びに共通の税制を施行](#)した[17日、クルディスタン24]。中央政府は、昨年のクルディスタン地域独立を巡る住民投票に対する経済制裁の一環として、クルディスタン地域に通じるチェックポイントにおいて「通行料」を徴収し、クルディスタン地域とイラク本土の経済交流を妨げていた。

ペシュメルガとイラク軍の協調において懸念材料はイラン支援下の民兵組織だ。イランは目の上のたんこぶであるアメリカ軍の撤退に向け傘下の武装勢力を通じた働きかけを行う。それら民兵組織は人民動員軍というイラク軍の補助部隊という形式で一纏めにされている。人民動員軍を構成する組織全てがシーア系ないしはイラン支援下であるわけではない。7日、[ある人民動員軍指揮官が逮捕された](#)と報じられた[8日、シュメールニュース]。[イラクを影響下におこうとするイランの姿勢を批判した](#)咎である[8日、アルアラビア]。



イラクの人々はアメリカ軍を支持するとも主張したとされる。彼の属する部族は[1920年革命⁶を再現すると政府を脅した](#)[9日、人民ニュース]。9日、当局は妥協し彼は[釈放](#)された[9日、NRT]。

アメリカ軍はシリアから撤退させた部隊をキルクーク近郊に展開しているとも伝えられている。これにイランの傘下勢力は反発し、イラク戦争直後のような反米闘争を行うと騒いでいる。これら民兵組織はアメリカ側の一挙手一投足を反米機運を高める機会にしようとする。バグダット駐在のアメリカ大使は19日、[外国軍の助け無しにイラク軍の治安維持能力はないと発言](#)した[20日、バスニュース]。これがイラン支援下の武装勢力の逆鱗に触れた。有カシーア民兵・政治勢力「真実の民同盟」指導者カイス・ハズリは人民動員軍含むイラク全軍への侮辱だと反発した。この勢力はISとの戦いの中でサダム・フセインの副官ドゥーリを討ち取るという功績を上げた。イラク中央は政府の力を弱めるイラン傘下勢力の専横を快く思っているわけではない。マリキ以降はその傾向が強まっていると言える。人民動員軍のある指揮官は11日、[新首相マフディがここ数日人民動員軍関係者の架空名義の事務所を多数閉鎖したと発表](#)した[12日、バスニュース]。これら事務所からは偽造公文書やアルコールが押収されたとも伝えられている。クルド側は中央政府のイラン傘下勢力に関する問題意識を理解し適切な働きかけをすることが求められる。

6 第一次世界大戦後のイギリスのイラク支配に対し発生した大反乱。

トルコの侵略行為

トルコの主権侵害

トルコは自国の安全保障のためであれば他国の主権侵害をする権利があるという主張の下、イラク領内に本拠地をおくクルディスタン労働者党(PKK⁷)の掃討を名目にイラクの主権侵害を継続する。

クルド系メディアは[トルコの空爆により放牧地から追いやられた北部ドホークの羊飼いの声](#)を伝えた[15日、ルダウ]。この羊飼いはトルコの空爆のため冬営地からの退去を余儀なくされ、家畜の肥育に甚大な影響を及ぼしたと主張する。トルコ側は空爆に伴う「不都合な真実」を覆そうとメディアをけしかけプロパガンダを展開する。トルコメディアはモスルのアラブ系部族による[PKKの存在がトルコ軍の空爆をもたらしているとの「声」](#)を伝えた[14日、紐帯]。

KRGはトルコへの配慮から地域内での軍事行動を黙認しているが、イラク中央は問題視している。イラク中央はトルコのイラクがPKK掃討が目的でなく、モスル、キルクークの利権を狙っていることを見抜いている。PKKが部族主義との闘争を掲げて旗揚げしたこともあり、バルザニー族の私党とも言えるKDPは非常に敵視している。イラク中央にとってPKKは目障りな存在はなく、KDPを牽制する有力材料と見る。イラク中央はPKK問題に関してトルコと協力する気はない。何はともあれまずはトルコ軍の撤退が前提条件というわけだ。トルコは政府に影響を及ぼすことができるイラン傘下勢力へも働きかけをする。トルコの駐イラク大使は有力なイラン傘下勢力の[バドル軍団指導者のハディ・アメリと面会しPKKに対し共闘訴えた](#)[13日、バスニュース]。ハディ・アメリはあくまで外国大使の申し入れということで礼を尽くしたが、それ以上の具体的な協力措置には言及しなかったと見られる。

軍事のみならず経済分野でもトルコの動向は見逃さない。トルコ外相チャブシオールはイスタンブールのベイオールでの会議において、[イラクの復興関連事業に500万ドルを融資すると発言した](#)[3日、アナトリア通信]。トルコの復興に関する事業に従事するトルコ企業への融資プログラムである。これは来月末にトルコで行われる選挙対策の一環である利益誘導であるが、イラク領内を経済的に侵略する手段の一つである。トルコはシリアにおいてISやクルド人勢力を掃討した地域に、トルコのインフラを導入し企業も進出させている。国境線の変更はできずとも実質トルコ無しに経済が立ち行かなくするという植民地化の手段だ。

トルコ軍への抗議運動

ドホークの警察は先月の[トルコ軍基地に対する抗議運動参加者16名を逮捕した](#)と伝えられた[19日、ルダウ]。トルコ軍基地は例えば日本におけるアメリカ軍基地におけるように、何かしらの協定に基づいて設置されたものではない。トルコが一方的にイラク領内に進駐してきたに過ぎない。イラク中央政府はなすすべがないため傍観せざるを得なく、KDPはPKKと敵対するためトルコ軍の行動を黙認しているだけだ。KDPはトルコとの関係悪化を憂慮し、トルコの占領に抵抗した現地住民に懲罰的対応を取らざるを得なかった。

⁷ クルド語名、Partîya(党) Karkerên(労働者たちの) Kurdistanê(クルディスタンの)の略。日本のメディアで散見される「クルド労働者党」の呼称は誤り。

ロジャバ (西クルディスタン、北シリア)

Rojavayê Kurdistanê



ジャジーラの嵐

IS 壊滅は秒読み

人民防衛隊(YPG⁸)を中心とする北シリア連邦連合軍のシリア民主軍(SDF⁹)は、先月トルコの脅威が一旦去ったことによりIS最後の拠点バグズの攻略を再開した。ISは敗色濃厚になる中人間の盾戦術を積極的に行っているとも伝えられている[3日、ルダウ]。そのため一時的に作戦を停止し投降を促し、また包囲環を締め上げるという戦術をとる。SDFは戦後に怨恨を残さないように、国際的イメージをさらに良くするため、民間人の犠牲を最小限にしようと尽力する。AFPは象徴的な写真をいくつも発表した[23日、AFP]。



22日には多数の戦闘員含む 2000人以上がSDFに投稿した[24日、ルダウ]。AFPのカメラマンが撮影した夕日を背景に多数の傷病兵がSDFから降伏許可を得るため行列を作る様子は、「カリフ制国家」の落日を強く印象付けるものであった。

⁸ 人民防衛隊のクルド語、Yekîneyên(部隊) Parastina(防衛) Gel(人民)の略。

⁹ シリア民主軍の英語名 Syria Democratic Forces の略。彼ら自身はアラビア語名 Quwwät(部隊) Sûriya(シリア) al-Dîmuqrâîya(民主的)の略 QSDをよく用いる。またクルド語では Hêzên(「力」すなわち軍の意) Sûriya(シリア) Demokratîk(民主的)を略して HSDと呼ばれる。



この大規模な投降の後も戦闘を継続するだけの戦闘員がいるとSDFは見ている。SDFの現場指揮官はクルド系メディアの取材に対し、[1000人以上がバグズ内に立てこもっていると話した](#)[24日、クルディスタン24]。投降したテロリスト達の窮状から察するに、辛うじて撃ち返すだけの余力しかないと推測される。ジャジーラの嵐作戦報道官リルワ・アブドゥッラーはクルド系メディアに対し、[ISはシリアで軍事的に敗北したと語った](#)[28日、ユーフラテスニュース]。ISの存在はもはや問題ではなく、戦後処理やトルコの出方が重要ということだ。国防総省はトランプのシリア撤退に反発し[IS復活の可能性を警告する報告書](#)を作成した[5日、シドニーモーニングヘラルド]。トルコがユーフラテス川東岸地域への侵攻を実施すれば、ISは数日で復活する。トルコの軽挙妄動さえ防げば問題はない。クルド人は既に北シリアの治安維持に十分な実力を有している。もしクルド人の統治が脅かされることがなければISの復活はあり得ない。

捕虜問題

SDFは増え続ける外国人捕虜への対応に苦慮する。SDFは自軍と民間人への被害を最小限に抑えるため、IS戦闘員を撤退を促す方針であった。マンビジュやラッカの解放においてもIS戦闘員と家族は脱出の機会を与えられた。今回はIS戦闘員の逃げ場がない状況であり、多数の捕虜を抱えざるを得ない。SDFは、出身国にIS戦闘員の引き取りを求め、それができないとしても捕虜を收容し続けるため資金・物資の支援を要請する。前述の対IS作戦報道官は国際社会は、IS壊滅と合わせて国際社会はテロリスト收容所の建設に協力すべきだとも発言した。多数のIS戦闘員をヨーロッパ諸国はIS戦闘員は犯罪行為を犯した国で処罰されべきとのスタンスを固辞する。アメリカ大統領トランプは17日、[EUに対し800人のIS戦闘員を身柄を引き受け裁判にかけるべきと発言した](#)[17日、ガーディアン]。関係各国はこの呼びかけを拒否した[18日、デイリーメール]。カナダの警察当局副局長は[カナダ人IS戦闘員を帰国させる用意があると発言した](#)[28日、バスニュース]。隣国イラクは原則自国出身者のみ受け入れるとしている。イラク軍大佐は21日、[150人以上のイラク国籍のIS関係者を引き渡された](#)と明かした[21日、ルダウ]。一方、イラク軍将校は[フランス人戦闘員14人の身柄も引き受けた](#)ことを明かした[25日、アルアラビア]。外国人戦闘員を身柄引き受けをした理由をヨーロッパにおけるISのネットワーク構築について情報を得るためとしている。SDFはIS捕虜、協力者への報復の取り締りにも追われる。SDFは[6人のIS捕虜殺害に関与した3人の部族兵を速](#)

捕した[13日、シリア人権監視団]。アラブ系部族は「血の復讐」の伝統を保持することも多い。IS関係者への復讐は、住民同士の対立を生み新たな地域不安の要素になりかねない。

一部はイスラム主義テロリストの「安全地帯」トルコへ逃れようとする。SDFは仇敵ISの捕虜を人道的に扱っている。しかし、トルコに逃れれば悠々自適の生活を送るか、故国に逃亡することもできる。クルド側としてもIS捕虜収容の負担から解放されるメリットがある。SDF報道官は[IS捕虜にトルコへの逃げ道を与えることを否定](#)した[1日、情況]。トルコにIS支援という反クルドプロパガンダの口実を与え、また元IS戦闘員の一部はトルコ傘下の武装勢力に加入し戦力増強を助けることにもつながりうる。

SDFは外国人捕虜問題を国際社会に理解させるため、連中を積極的にメディアに公開する。明らかになったのが、IS戦闘員とその妻の無思慮、身勝手さ、ご都合主義である。エジーディたちに対する犯罪に後悔の姿勢を見せることもなく、自らの行く末だけを案じているのが共通する。ISの理想に殉じる気概も無く、辛い状況に耐えられないから、捨てたはずの祖国での快適な生活に思いをよせる。”ジハーディ・ジャック”として知られるイギリス系カナダ人テロリストはイギリスのテレビ局の取材に対し、[今は母を思い故郷へ帰りたいと語った](#)[23日、CBC]。悪質と言えるのがIS戦闘員妻となった女性たちだ。その筆頭はバングラデシュ系イギリス人のシャミマ・ベガムである。2015年に友人2人と共にイギリスを出国する様子が世界的に報道された。彼女は現在SDFの難民キャンプで子供と生活する。イギリスメディアの取材に対し、[イギリス国民は自分の境遇に同情すべきであり、一刻も早い帰国を希望すると語った](#)[18日、ガーディアン]。イギリス内務省は[ベガムの家族に彼女の市民権剥奪を通知](#)した[20日、ワシントンポスト]。彼女は未だに[ISのエジーディたちに対する仕打ちを正当だと考えている](#)と報じられた[20日、ザサン]。クルド系メディアは[ドイツ出身の白人女性のIS戦闘員妻の独占インタビュー](#)を掲載した[2日、クルディスタン24]。イスラムに興味もち改宗しムスリムになったものの、ドイツでムスリムとして生きることは難しかったと語る。その時IS構成員とSNSを通じて知り合いシリア渡航を決めたという。ラッカに到着しそのIS構成員の三番目の妻となって始めてテロリストの一味になったことを自覚し恐ろしくなったとのことである。エジーディたちはこのようなIS戦闘員妻の身勝手さに怒りを募らせる。エジーディ団体事務局長はメディアの取材に対し、[IS戦闘員の妻たちもまた犯罪者に加担したのであり、適切に捜査され処罰されるべきと語った](#)[22日、バズフィード]。テロリストの境遇に同情するより先に、未だ多数の行方不明のエジーディの安否に思いを寄せるのが先ではないだろうか。そのためには彼女らの取り調べを行い、エジーディたちの行方に関する情報を得ることが求められる。

ユーフラテス東岸地域

トルコ軍侵略の危機

トルコ国営通信社は2日、[トルコ軍が国境地帯の部隊増強を継続](#)していると報じた[2日、アナトリア通信]。トルコ国防相フルシ・アカルは24日、[ユーフラテス東岸地域とマンビジュで攻勢を行うと発言](#)した[25日、情況]。トルコ軍による北シリアの制圧はトルコ国家の生存のため必要だと身勝手な主張を繰り返している。

クルドとトルコ双方の同盟国であるアメリカは、トルコに侵攻を思い止めさせようと努力する。トランプ政権によるシリア撤退。アメリカ中央軍司令官ジョセフ・ヴォーテルは10日、[北シリアのアメリカ軍部隊の撤退を数週間以内に開始すると発言](#)した[11日、NRT]。トランプは内外の反発に直面し、またトルコの脅威を鑑み決断を修正した。ホワイトハウス報道官は21日、[シリアに200人程度の部隊を残存させると発表](#)した[22日、朝日新聞]。駐留の目的を「平和維持のため」としている。トルコの侵攻への抑止力であることは明白だ。SDF指揮官はアメリカメディアの取材に対し、[「前向きな決定」と歓迎](#)した[22日、アメリカの声]。SDFの防衛力を高めるために装備の供給も継続する。シリア人権監視団は5日、[新たに有志連合軍属の200台のトラックがハサカに入域](#)したと報じた[5日、シリア人権監視団]。アメリカは軍事顧問としても役割を果たす。エルドアン寄りトルコメディアはSDFの補助部隊として[アメリカ軍が「部族軍」の結成を後押し](#)していると報じた[24日、新たな夜明け]。トルコ側が主張するようにSDFを支援するためだけではなく、IS復活を阻止する取り組みの意義が大きい。テロ組織に活動の余地を与えないためには部族の協力が欠かせない。

シリア民主会議(MSD¹⁰)共同議長のイルハム・アフマドはアメリカ訪問中に記者会見を実施し、トルコとの紛争を終結させるため対話の用意があると語った。トルコ寄りの反体制派系メディアは[「目覚ましい発展」と報じた](#)[1日、シリアの声]。北シリア統治を主導する民主統一党(PYD¹¹)がトルコの度重なる軍事挑発に屈したという印象を植え付けたいと思われる。実際はトルコの軍事挑発に対する国際的包囲網を形成するための戦略的呼びかけだ。イギリスを訪問し、[20日にはイギリス議会で発言](#)した[21日、ユーフラテスニュース]。トルコが北シリアへの攻撃を継続し、クルド人への戦争を企てていると発言した。イギリスでトルコの軍事挑発を告発できた意義は大きい。イギリスはオスマン帝国時代からの親トルコ国であり、首相メイはトルコ領内でのクルド人の抵抗運動を「クルドのテロリズム」と表現し物議をかもしたこともある。

・安全地帯構想

PYD元共同代表サリフ・ムスリムは汎アラブ紙の取材に対し、[いかなる形においてもトルコの北シリアへの関与は事態をより混沌とさせると主張](#)した[6日、中東]。先月プーチンはトルコはアダナ合意に基づき自国の安全保障のためであれば、シリア領内に介入する権利があると認めた。ロシア外相ラブロフは24日、[アダナ合意に基づき北シリアに安全地帯の設置を支援すると発言](#)した[24日、バスニュース]。ロシアはアメリカ軍撤退実現のためクルド側に揺さぶりをかけている。北シリア防衛は何もアメリカ軍頼みでなくとも、アサド政権と協力することで実現できると呼びかけているのだ。アサドは17日、ダマスカスで演説し[全ての侵入者は敵だと発言](#)した[19日、アラブソース]。トルコによる安全地帯は必要ないと断じた。

安全地帯構想にはイラク領内のクルド人も介入を目論む。汎アラブ紙の取材により、北シリアではアラブ人とイラク領内のクルド人から編成された平和維持部隊による安全地帯維持案が浮上していることが明らかにされた[同上]。サリフ・ムスリムはこの案を否定している。KRGを主導するKDPはシリアのクルド人の安全保障を自らの手で達成することで、PYDの北シリア支配に挑戦しようとする。KRG安全保障部門トップであるマスルール・バルザニは6日のアメリカ軍指揮官との会談において、[シリアの各勢力にクルド人の安](#)

¹⁰ クルド語の正式名称 Meclîsa(アラビア語で会議の意) Sûriyeya(シリア) Demokratîk(民主主義)の略。英語名 Syrian Democratic Council'sの略称SDCも使われる。

¹¹ PYD—民主統一党のクルド語、Partîya(党) Yekîtiya(統一) Demokrat(民主)の略。

全保障のため政治的合意をするよう要請した[7日、クルディスタン24]。KDPは党利党略だけではなく、トルコの野望からシリアのクルド人を守ろうとする意志によることは指摘されなければならない。ペシュメルガの指揮官シルワン・バルザニは、トルコによる北シリア支配が実現すれば全てのクルド人が難民となると発言した[10日、メソポタミア通信]。トルコの友好勢力がPYD抑止のため北シリアに駐留すればトルコも攻撃を思い止めるという狙いだ。

マンビジュ (Minbic)

トルコの挑発

トルコがマンビジュ攻撃計画を発表して以来、テロが頻発し治安状況は悪化している。SDFの傘下勢力であり現地を防衛するマンビジュ軍事委員会(MMC¹²)は、サジュール川¹³の前線を監視しつつトルコが仕掛けるテロに対応を迫られる。1日、MMC指揮官の自宅に爆弾攻撃が行われた[1日、シリア人権監視団]。幸いにして狙われた当人が外出中に爆発があり一命を取り留めた。しかし、現場に居合わせた住民に負傷者が発生した。MMCは2日、サジュール川でトルコ傘下の傭兵勢力が照明弾を打ち上げたと発表した[2日、MMC]。トルコ軍はアメリカ軍が駐留するため直接的な軍事行動は控えているものの、傘下勢力をして挑発行動をせしめMMCの反撃を誘い戦闘を発生させようとする目論む。トルコ外相チャブシオールは6日、マンビジュ合意の履行は進んでいると発言した[7日、ロイター]。共同警備の実施と並んでマンビジュ管理の主体について交渉が進んでいるとのことである。アメリカ側からアナウンスがなくトルコ側の願望を述べているに過ぎないと見られる。アメリカ軍はトルコ軍とではなくMMCと警備活動を行う。MMCは28日、アメリカ軍が警備活動を行ったと発表し、車両の画像をSNS上に投稿した。[28日、MMC]。



アサド政権の動向

アサド政権はトルコによるマンビジュ侵攻の可能性が出て以来、マンビジュ近郊に部隊を展開している。マンビジュ市内並びにMMC支配地域には入域していない。シリア軍部隊もマンビジュ近郊で警備活動を実施している模様だ[3日、アラブソース]。ロシア軍部隊も内戦開始以来初めてマンビジュ近郊のトルコ軍支配地域で警備活動を行った。ロシア政府系メディアがその模様を動画として公開している[13日、ロシアトゥ

¹² 英語名 Manbij Military Council の略。クルド語では Meclîsa(会議) Leşkerî(兵士) ya Minbicê(マンビジュ)。彼ら自身はアラビア語名 almajlis(会議) manbij leaskari(兵士)を用いる。正式名称は「マンビジュ並びに郊外防衛のための軍事委員会」。

¹³ マンビジュ北方を流れる川。トルコ側勢力とクルド側勢力の境界となっている。

デイ]。アサド政権の狙いはトルコ軍の侵攻の危機に乗じてマンビジュの支配を回復することだ。アサド政権の大統領補佐官は19日、メディアの取材に対し[シリアのクルド人の自治を認める気はないと発言](#)した[19日、ロイター]。アメリカ軍部隊は撤退しない以上敵対するアサド政権勢力の駐屯は許さない。

アフリン(Efrîn)

トルコ化政策

トルコは将来アフリンを併合するためトルコ政策を進める。ハタイ併合の際と同様住民投票を行うための布石だ。シリアのクルド系テレビは[児童にトルコ化教育が行われている](#)と報じた[1日、ロナヒテレビ]。



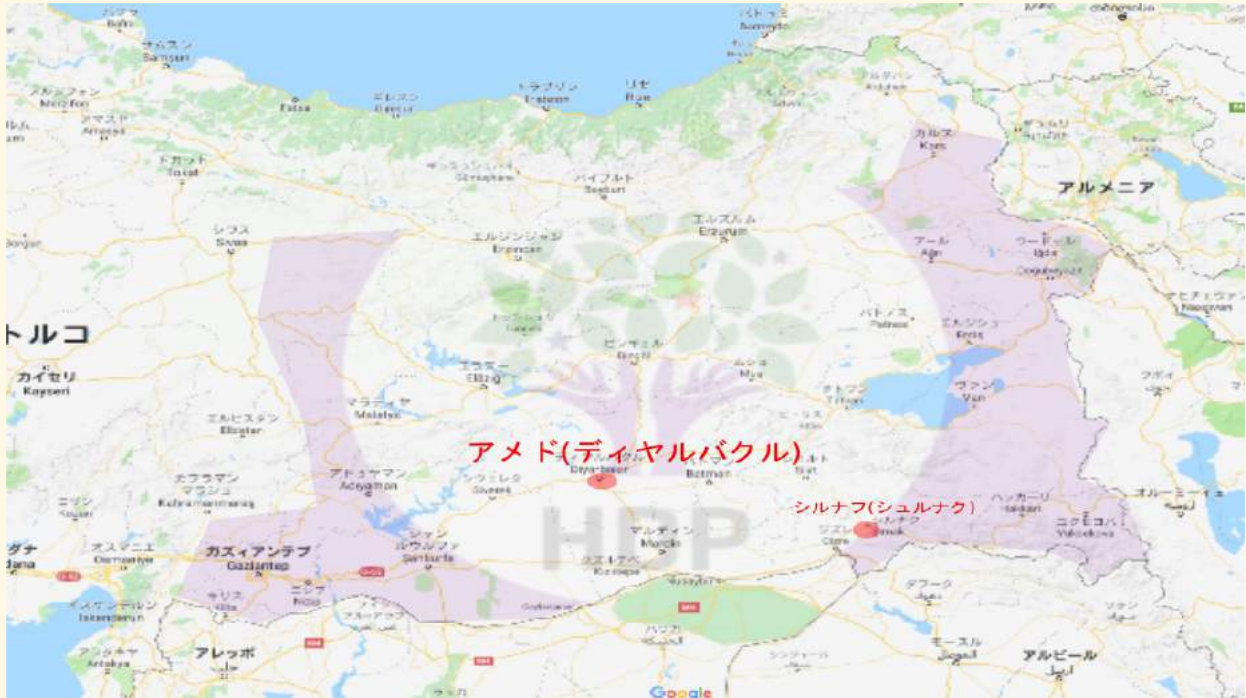
トルコ政府は[シリアのイスラム学校教師育成を支援](#)していることを明らかにしている[3日、クルディスタン24]。トルコの宗教学校の分校でシリア出身者たちはイスラム学と並びトルコ語教育を受ける。トルコ政府関係者はまるで隣の県に行くかのようにアフリンを訪問しトルコ化の進捗を視察している。トルコ語の強制はアラブ系住民にとっても好ましいことではない。トルコによるトルコのための植民地的教育政策である。植民地経済の構築も既に始まっている。トルコはアフリンのオリーブを略奪し、領内で加工しトルコ産オリーブオイルとして輸出していることが明らかになっている。アメリカの有力テレビ局もこの問題を取り上げ、[EU各国でトルコ産オリーブオイルに疑念の目が向けられていることを紹介](#)した[1日、FOX]。

クルド人の抵抗

アフリンでのゲリラ活動はアフリン解放軍の名で行われている。アフリン郊外や農村地域での活動が多いがアフリン市内での作戦能力も保持する。アフリン市内で21日、[トルコ傘下の傭兵勢力の集団を狙い自動車爆弾が爆発](#)した[21日、ロナヒテレビ]。トルコに対する抵抗運動の成果は主としてクルド側から発信されるものの、トルコ軍とその傘下勢力が損害を認めることがある。トルコ傘下のスルタンムラト旅団は13日、[アフリン郊外で指揮官の一人がオートバイに仕掛けられた爆弾で殺害されたと発表](#)した[13日、スルタンムラト旅団]。ゲリラ活動はトルコの植民地化を遅らせることはできても直接的な解放にはならない。SDFは17日、[ハサカで定例会議を開催](#)した[17日、ハワルニュース]。ISの壊滅後、アメリカ軍撤退後の方針について話し合われたという。会議後発表された声明によれば、アフリンの解放とトルコ軍に追放された住民の帰還を次の段階の最優先課題にすることが検討された。

北クルディスタン（トルコ領南東部）

Bakurê Kurdistanê



迫る統一地方選挙

・標的にされるクルド系政党

トルコは3月31日に知事と地方議会議員選挙を実施する。この選挙が終われば2020年まで新たな選挙は無く、エルドアンは独裁体制完成のため。エルダンの目論見とは裏腹にトルコは経済が不調なことから政権与党公正発展党(AKP¹⁴)は逆風に見舞われている。クルド系政党人民民主党(HDP¹⁵)は徹底した治安当局による弾圧、選挙妨害、プロパガンダ攻勢にあっている。

内相スレイマン・ソイルは2日、オスマン帝国時代の離宮での演説において、HDPをテロリストとしハンガーストライキを茶化した[2日、新たな夜明け]。前日にマルディンで300~500人の候補者が立候補したことに触れ、HDPはPKKの政治部門としての役割を果たしていると発言した。そしてハンガーストライキによってHDP関係者が亡くなったらその葬儀に一緒に行こうと放言した。極右政党指導者デヴレト・バフチェリは13日、HDPはトルコ国家の破壊をもたらす存在だとツイートした[13日、@dbdevletbahceli]。

トルコ司法は1日、クルド人元議員のセバハット・トゥンジェルとグルタン・クシャナクに刑期を延長する判決を下した[2日、ロイター]。トゥンジェルは15年、クシャナクは14年3ヶ月である。トゥンジェル氏は、2015年10月に来日し日本で講演したこともある。これに対しHDP両共同代表はこの判決を批判する声明を出した[2日、ユーフラテスニュース]。

14 トルコ語の党名、Adalet(アラビア語で公正) ve(と) Kalkinma(進歩) Partisi(党)の略

15 トルコ語の党名、Halkların(諸人民または国民の) Demokratik(民主主義) Partisi(党)の略。Halkはアラビア語で人民を意味する halqに由来する。

エルドアンは候補者を勾留するという戦術もとる。5日、[ウルファにおいてHDP 選挙事務所開設の式典を治安部隊が襲撃し知事候補者が逮捕された](#)[5日、ユーフラテスニュース]。7日、[マルディンにおいて13人のHDP関係者が拘束された](#)[7日、ユーフラテスニュース]。19日までにそのうち12人が釈放される中、HDP支部の共同委員長[アリ・シンジャルのみ勾留を延長された](#)[19日、ユーフラテスニュース]。エルドアンはHDPの恐怖は去ったと支持者の前では虚勢を張る。22日のムーラ県での演説中に、[治安当局により3月31日におけるPKKの希望は打ち砕かれたと発言した](#)[23日、朝刊]。一部の選挙区では政治的弾圧によってもHDPの勢いを抑えることができず。AKPはウードゥル、カルスで同盟相手のMHP候補者を当選させるため、[自党候補者の立候補を引き下げた](#)[19日、ユーフラテスニュース]。

野党共闘

HDPは共和人民党(CHP¹⁶)に配慮しイスタンブル、アンカラ、イズミルといった大都市で候補者を立てない方針だ。AKPはCHPやいい党といった有力野党に対して、HDPと候補者の調整等で非公式な協力関係にあることからPKKに屈したとの中傷キャンペーンを展開する。

政権寄り新聞は「[CHPのPKK候補者](#)」という記事を掲載した[7日、新たな夜明け]。トルコメディアは、PKKの政治局とも言われるクルディスタン社会会議(KCK¹⁷)執行部メンバーが、[HDP支持者に3党連合を支持するよう呼びかけたと報じた](#)[3日、新たな夜明け]。HDPの戦略的判断を支持する趣旨のもので、CHPやいい党との何か特別な関係をうかがわせるものではない。また、トルコ西部の大都市圏の知事選においてはCHPに妥協したが、地方議会選挙から完全撤退したわけではない。[イスタンブールの6選挙区においては候補者を立てると発表した](#)[3日、メソポタミア通信]。

「野党共闘」戦略には異論もある。トルコ人コラムニストは、「[HDPは自己犠牲の末に何を指すのか?](#)」と題したコラム中で、同党の候補者調整を「狡猾な賭け」と批判した[3日、アラブ週報]。トルコの民主主義復活のためHDPに期待したが、失望したという論調だ。確かにエルドアンがHDPに的を絞って弾圧を行う中、「野党共闘」は元来敵対関係にあるケマリズム、民族主義政党を利するだけに終わる可能性が高い。

デミルタシュは獄中で選挙に関するトルコメディアの取材に応じた。その中で[HDPはCHPを支援するわけではなく、同盟を組んだわけではないと発言した](#)[25日、情報源]。

今回の選挙におけるHDPの取り組みで特筆されるべきはトルコ政党との共闘ではなく、クルド系政党の統一戦線決定である。HDP両共同代表は22日アメドにおいて、[トルコ・クルディスタン民主党\(TKDP¹⁸\)との選挙協約に署名した](#)[22日、ユーフラテスニュース]。HDPは選挙で勝利する以上の大きな戦略目標を有している。先月本報告書で指摘したが、HDPはこの逆境において将来の自治政府形成に向けた「民主的統一」の試みをしているのである。

16 トルコ語の政党名 Cumhuriyet(共和国) Halk(人民) Partisiの略。「トルコ建国の父」ケマル・アタテュルクが設立した政党である。

17 クルド語の組織名、Koma(会議) Civakên(社会) Kurdistanの略。

18 トルコ語の党名、Türkiye Kürdistan Demokrat Partiの略。

クルド人への弾圧

対 PKK 作戦

統一地方選挙を前にして PKK 掃討作戦とそれを口実にしたクルド人住民への弾圧にも力が入る。治安維持はクルド系政党の選挙運動を物理的に阻止することができるからである。クルド人弾圧で悪名高い憲兵部隊¹⁹は先月末から 1 日に、アメド(ディヤルバクル)周辺で作戦を行った。その一部模様を[メディアに公開](#)した[1 日、TRT]。成果は車両や爆発物といった装備を押収したという消極的なものだ。24 にも憲兵部隊は同様の作戦を実施し 3 人の PKK 戦闘員を逮捕したと発表した[24 日、TRT ニュース]。確かにアメドには PKK の拠点がある。それ以上にトルコ領クルディスタンで最大の人口を誇る HDP の最重要選挙区で作戦を行う意義がある。PKK の軍事部門の発表においては、国境県とイラク領内での作戦の報告が多い。アメドは主要な作戦地域とみなされてはいない。治安当局は 13 日、[アメド近郊のリジェで 5トンの薬物を押収したと発表した](#)[13 日、ニューストルコテレビ]。

あらゆる政治活動を PKK に結び付けて関係者を逮捕する。トルコ内務省は 15 日までに [PKK 協力者 735 を逮捕したと発表した](#)[17 日、NRT]。PKK を支持する大衆行動を準備し来月の選挙前に治安を紊乱しようとした容疑である。選挙対策であることを政府自ら認めている。

抵抗の象徴

長期のハンガーストライキにより釈放を勝ち取ったレイラ・ギュヴェンに続き新たな抵抗の象徴である女性が生まれた。2 年以上もの間拘束されていた女性ジャーナリスト兼芸術家ゼフラ・ドアンが 24 日 [釈放された](#) [24 日、メソポタミア通信]。彼女は 2017 年 7 月に「批判の限度を超えている」として有罪判決を受けた。2015 年後半から 2016 年前半にクルド市民軍市民防衛隊とトルコ軍との戦闘で、ドアンは破壊された市街地の絵を描いた。それがエルドアンの「批判の限度」を超えたのである。ドイツの放送局はドアンを「[筆と絵筆で戦う反骨の闘士](#)」と報じた[26 日、ドイツの波]。クルド人だけではなくあらゆる独裁政権に反対する多くの西欧人にも共感を呼んでいる。

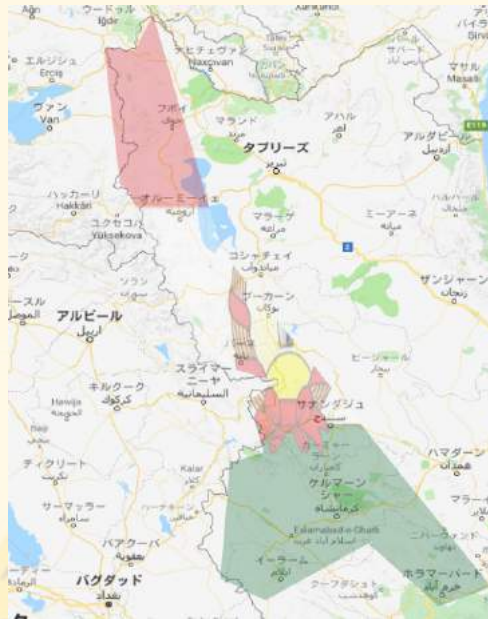
東地中海の緊張

トルコは東地中海底に埋蔵する天然ガスを巡りギリシャ、キプロス並びにそれらを支援アメリカ、イスラエルとも対立する。トルコ国営石油会社はマルマラ海で 2 度目の試掘調査を行っている。同社がスペインから移送した [探削船は 22 日ダーダネルス海峡を通過した](#) [23 日、朝刊]。こうした活動はトルコ海軍によって厳重に護衛されている。トルコ海軍は 27 日、[東地中海で史上最大の海上演習を開始した](#) [27 日、アナトリア通信]。東地中海情勢は国際的なトルコ包囲網形成という意味でクルド情勢にも関わってくるため注視が必要だ。

¹⁹ トルコ語ではフランス語の Gendarmerie に由来する Jandarma と呼ばれる。日本でもジャンダルマとカタカナ表記されることが多い。

東クルディスタン(イラン領西部)

Rojhilata Kurdistanê



40年間の失敗



今月はイラン革命40周年である。40周年目を迎えたイラン・イスラム体制「法学者の統治」には綻びが生じている。イラン革命の際に大きな役割を果たし、イラン亡命政府の親もある「人民の殉教者軍団 (PMOI²⁰)」は、亡命先で活動を活発にしイランの民衆へ抵抗を呼びかける。PMOI 指導者の妻であり表舞台に立つマルヤム・ラジャビは革命40周年に際し、[イスラム体制打倒の時だ](#)と声明を出した[8日、PMOI]。アメリカも40年前の雪辱を晴らすべくイスラム体制打倒に本腰を入れる。トランプは11日の、[英語とペルシャ語で「40年間の失敗」²¹](#)に関するツイートを行った[11日、@realDonaldTrump]。クルド勢力はやや冷ややかに見える。かつて史上初のクルド人国家建国を主導したイラン・クルディスタン民主党(PDKI²²)は前

20 英語名、People's Mujahedin of Iran の略。日本ではペルシャ語をカタカナ表記にしたモジャーヘディーネ・ハルグと呼ばれることが多い。

21 トランプのみならずアメリカ政府はペルシャ語でも chehel(40) sal(年) shekast(失敗)キャンペーンを進める。

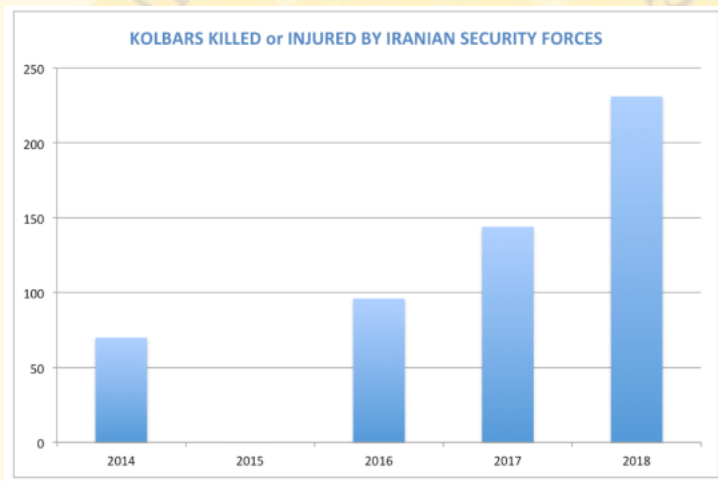
22 クルド語の党名、Partiya Demokrat a Kurdistanê Îranê の略。

述のような特別な声明を出していない。PDKIは14日、[クルド人弾圧のイランの国家テロに関する事実と数字](#)と題した記事を公開した[14日、PDKI]。特に革命40周年を中心にしたものではない。PKKの流れを汲むクルディスタン自由生命党(PJAK²³)は[イラン近代史を振り返り革命を呼びかけるペルシャ語の声明](#)を出した[10日、PJAK]。PJAKも基本的にはトルコのレイラ・ギュヴェンのハンガーストライキに関する連帯やシリア領内のアフリンにおける抵抗運動に連帯を呼びかける声明等、PKKに殉じた内容が多い。イランで「第二革命」が起きるとすれば、クルド勢力も何らかの形で反体制派と関わらざるを得ない。

クルド人労働者の虐殺

イラン軍、革命防衛隊はクルド人荷運び人「コルバル」の殺害を続けている。1月に比べると殺害に関する情報は多くない。イランは今月はやや大人しくなったと言えるだろう。クルディスタン州バネで17日、[コルバルが治安部隊に銃撃され1名が死亡](#)した[17日、NRT]。

PDKIはクルド系人権団体の統計データを引用した報告を公開し、[2014年以來一貫してコルバルの殺害件数が増えていると指摘](#)した[26、PDKI]。



イランの経済が悪化する中でコルバルに身を投じざるを得ないクルド人が増加したと推測することができる。イラン当局もそれに従って弾圧を強化しているというわけだ。

コルバルの青年が凍死するという悲劇も起きた。19日、コルバルの[17歳の青年の凍死体がバネ地域の雪山で発見](#)された[20日、バスニュース]。凍死例はこの2ヵ月で5件目だという。

文責：一般社団法人日本クルド友好協会 研究員 並木宜史